

みんなの水

横浜市立南高等学校附属中学校

一年 佐々木 久美

私が生まれてから十三年間、水を使わなかった日は一度もないです。お風呂もトイレも、料理や掃除にだって使います。そして、飲むためにも使います。それはいつも、とう明できれいで、おいしい。小さいころはあたり前だったけれど、小学四年生になって水の大切さにふれる機会がありました。

私が住んでいる町から近い、宮ヶ瀬ダムへ校外学習に行った際、宮ヶ瀬ダムの歴史と役割を学びました。まず、宮ヶ瀬ダムは、宮ヶ瀬という町がしずんでできたダムだと知りました。当然、町の人たちのほとんどは、反対しました。自分の住んでいる町をダムにしたい、と言われたら、私は反対すると思います。でも、みんながきれいな水を飲めるなら、と賛成してくれた人もいたから、宮

ヶ瀬ダムができたのだと思ったら、心があたたかくなったのと感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、そのダムの役割は、ダムにたくわえた水を川に放流し、浄水場まで運ぶことです。放流の時のいきおいは、迫力満点でした。その後、小雀浄水場では水をきれいにするまでの手順を見学しました。最初に沈砂池で砂をはずめ、次に沈殿池でにごりの固まりを作りしずめます。そして、ろ過池で小さなにごりや細菌を取り除いたら、送水ポンプでみんなの家にきれいな水が送られます。蛇口をひねって水が出るまでに、長い時間と手間をかけることにおどろきました。ダムと浄水場の見学を終えてから、水に関心を持つようになりました。歯みがきやシャワーの時に、水を出しっぱなしにしないようにして、水を使う時間を省いたり、お風呂で浴そうに貯めた水を使い終わったら洗濯で使い、水を再利用するなど、日常の中の水の無駄使いを減らすようになりました。

小学六年生になると、四年生や五年生と比べて、さらに学習の視野が広がり「SDGs」について学びました。SDGsとは日本語で持続可能な開発目標の略称で、国連加盟一九三か国が二〇三〇年までに達成するために掲

げた一七の目標です。私はその中の「安全な水とトイレを世界中に」というタイトルで、すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保するという目標に興味を持ちました。インターネットで調べると、水道設備がまだ整っていない、マダガスカルに住む女の子の記事がありました。その子は、朝早くに起きて水くみに出かけます。水汲みには往復一時間もかかる上、家族分の水を一人で運ぶため、朝と学校帰りと夕方の三回水くみに出かける必要があります。しかも、時間をかけて汲んだ水は、とても衛生的とは言えないる過されていない水です。そんな水を使ったり飲んだりするので、体調をくずしてしまうこともあるそうです。毎日毎日、重い水を運んで、ろ過されていない水を使ったり飲んだりする生活は今の日本では考えられないです。何かできることはないかと考えた末、たどりついた答えは募金をする事でした。国際連合児童基金と国内委員会は、約一九〇の国と地域で、子どもたちの命と健康、権利を守るために活動しています。その募金で、きれいな水を使えるようになった子が増えたそうです。

私がこの作文を通して伝えたいことは、「きれいな水

を飲んだり使ったりすることができるのはあたり前ではない」と言うことです。それは、ダムにするために自分の町をはなれた人、ダムや浄水場を造ってくれた人、水を浄水場できれいな水を作ってくれる人、それを各家庭に届けるための水道管を作ってくれた人、数えきれない人達が関わっています。いつかは、全世界の人々が安全な飲み水や生活水が使えるように募金や、海を汚さないようにしていきたいです。